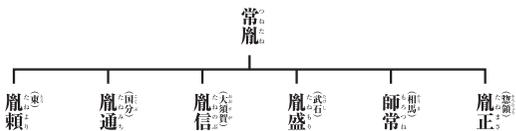


千葉六党



金剛授寺尊光院に参詣する頼朝と千葉家の人々 『下総国千葉郷妙見寺大縁起絵巻』 歿喜寺蔵 非公開



千葉介胤正 常胤の長男



千葉氏の本家の家督と上総・下総守護職を継承し、両介と呼ばれた。また、千葉領であった千葉庄(千葉市)を始め下総国内、上総国内、九州の小城郡、薩摩の寄郡・五個郡などの所領を譲られた。頼朝の近くに仕え、頼朝より深く信頼された。

大須賀胤信 常胤の四男



大須賀氏の祖。常胤より千葉庄田部田郷(若葉区多部田町)、香取郡大須賀保(千葉県成田市)を譲られた。また、奥州合戦の功績によって陸奥国岩城郡(福島県いわき市)に所領を与えられた。

相馬師常 常胤の次男・別称師胤



相馬氏の祖、常胤より下総の相馬御厨を譲られた。また、文治5年(1189)の奥州合戦の功績によって陸奥国行方郡に所領を与えられた。この一族は、後、奥州相馬氏と下総相馬氏に分かれる。

国分胤通 常胤の五男



国分氏の祖。常胤より下総国葛飾郡国分郷(市川市)を譲られた。また、香取郡本矢作(香取市)にも所領があった。

武石胤盛 常胤の三男・別称胤成



武石氏(苜理氏、蒲谷伊達氏)の祖、常胤より千葉庄武石郷(千葉市花見川区武石町地内)を譲られた。また、奥州合戦の功績によって陸奥国行方郡に所領を与えられた。鎌倉時代の末、陸奥国に移住。

東(木内)胤頼 常胤の六男



東氏・海上氏の祖。常胤より下総国木内庄、立花庄(後東庄に地名が変わる。香取市・東庄町など)や三崎庄(銚子市・旭市)などを譲られた。

頼朝への参上を決意した常胤は、胤頼(常胤の六男)と成胤(常胤の孫)に命じて下総国府の平家を討った後、1180年(治承4年)9月17日、この国府において頼朝と面会しました。また、上総介広常は、2日遅れて頼朝に参上しました。常胤や広常の協力を得た頼朝は、10月2日、太日川(今の江戸川)、墨田川を渡って武蔵国に入り、更に相模国の鎌倉に入りました。

頼朝の信頼を得た常胤は、源平合戦や奥州合戦の後、下総国・上総国をはじめ全国各地に広大な所領を得て、幕府の中でも有力な御家人に成長しました。

これらの領地は、その後6人の子が受けつぎました。これを千葉六党といい、惣領である千葉介を中心に強力に一族が団結しました。

- ※ 源平合戦・・・源氏と平家の戦い。
- ※ 奥州合戦・・・頼朝と東北地方を支配していた藤原氏との戦い。
- ※ 御家人・・・頼朝の家臣。